特集「若手研究者」の編集にあたって

谷口 倫一郎[1,a)]

情報処理技術のさらなる発展のためには，学生を含む多くの若手研究者が，自由な発想や好奇心に基づき研究を進めることが重要である．そのための環境を整えること，すなわち，次世代を担う若手研究者の活動支援を行うことは，情報処理学会の重要な責務の1つである．本特集号は，若手研究者の活動を支援することを目的に2014年より実施しており，今回が5回目となる．

本特集号編集委員会は，論文誌ジャーナル編集委員会を中心に，編集委員としての経験が豊富なメンバから構成した．編集作業を進めるにあたっては，極力タイムリーかつスピーディな論文掲載となるように努めた．

投稿は6月16日に締切り，論文誌ジャーナルに投稿された和文論文の総数が34件，Journal of Information Processing（JIP）に投稿された英文論文6件を合わせると計40件に達した．第1回編集委員会はオンラインで開催し，メタレビューアの割当てを行った．第2回編集委員会は9月3日，第3回編集委員会は11月22日に開催し，最終的に15件（JIPの1件を含む）の論文を採録と判定した（採択率37.5%）．投稿締切から1回目査読判定結果の著者への通知に約3カ月，最終判定の通知までにはさらに約3カ月を要した．

編集委員会では，論文の良いところを積極的に評価する，新規性あるいは有用性の一方が弱いことのみを理由として不採録判定を行わないなどの原則に則った審議を行った．これらの方針は，論文の採択数を増加させる傾向があると思われるものの，一方で，タイムリーな論文掲載のために照会期間が通常より短いこともあり，大幅な論文修正をともなう条件付採録の判定は行わず，むしろ早めに不採録の判定とコメントを著者に返し，再投稿を促す方針とした．この方針は，論文の採択数を減少させる可能性があるが，2回目の査読で不採録となるリスクも考慮したときに，なるべく早く掲載に至る確率が高そうであることを重視し，このような方針とした．基本的な論文執筆の作法を学ぶためには，手前味噌にはなるが論文誌編集委員会が学会誌に2019年9月号から2020年1月号にわたって連載した「論文必勝法」が最適である．ぜひ，ご一読いただきたい．

[1] 九州大学
Kyushu University, 744, Motooka, Nishi-ku, Fukuoka 819–0395, Japan
[a)] rin@kyudai.jp

本特集は，多くの皆様のご協力に支えられて刊行に漕ぎ着けることができた．ご投稿いただいた会員の皆様，スケジュールがタイトな中，丁寧な査読にご尽力いただいた査読者の皆様，論文審査にご尽力いただいた本特集号編集委員の皆様，編集委員会の活動をご支援いただいた学会事務局の皆様に，心より感謝する次第である．

「若手研究者」特集号編集委員会

- 編集委員長
  谷口倫一郎（九州大学）
- 編集副委員長
  湊　真一（京都大学）
- 幹事（五十音順）
  島岡政基（セコム（株））
  田中勇樹（群馬大学）
  松島裕康（東京大学）
  渡辺博芳（帝京大学）
- 編集委員（五十音順）
  市野将嗣（電気通信大学）
  井原雅行（NTT）
  井村誠孝（関西学院大学）
  大平雅雄（和歌山大学）
  片山　薫（首都大学東京）
  耒代誠仁（桜美林大学）
  中嶋秀治（NTT）
  野呂正明（富士通研究所）
  波多野大督（理化学研究所）
  松崎公紀（高知工科大学）
  真鍋宏幸（芝浦工業大）
  森勢将雅（明治大学）
  山田太造（東京大学）

© 2020 Information Processing Society of Japan